

美研が描く！ /

WINTER

まちがいさがし

雪あそび編

正解はTACT WEBを
チェック！



制作者：
美術研究会 /
さいとう まいみ
齋藤 舞花さん
デザイン学科 3年
(神奈川県 川崎市立
川崎総合科学高校出身)

元気いっぱいのタッピーと一緒に、まちがいを探してみよう！

真っ白な雪山でソリを満喫！雪だるまもどこか嬉しそうです。
イラストの中には、タッピーがうっかり間違えちゃったポイントが8つあるよ。
全部見つけられるかな？



challenge!
change!
chance!

学報テーマ 「challenge!change!chance!」

新しいことに挑戦 (challenge!) し、成長する。学びを通じて自分を変化 (change!) させる。未来につながるチャンス (chance!) をつかむ。
この3つのキーワードを旗印に、拓殖大学では、教職員が連携して、学生が自らの可能性を広げ、夢に向かって進める環境づくりに取り組んでいます。
学報TACTおよびTACT WEBでは、大学の最新の取り組みや魅力を発信。
在学生や保護者、卒業生はもちろん、高校生にもぜひ知ってほしい拓殖大学の「今」をお届けします！

TACT
WEBはこちら
<https://tac.takushoku-u.ac.jp/>



「大学からのお知らせ」は
ここからCHECK!



Cover Model

さとう みなみ
佐藤 美南さん
国際学科 3年
(新潟県 柏崎常盤高校出身)



[SNSはこちら]



@takushoku_Univ



YouTube
Takushoku University
拓殖大学



Facebook
<https://www.facebook.com/Takushoku-University>



Instagram
@takushoku_univ

T
A
C
T

VOL.400
2026

Winter

| 学報 タイト | Jan・Feb・Mar 2026, VOL.400 | 2026年2月2日発行 | [広報室] Tel:03-3947-7160 (直通) / E-mail: web_pub@tc.takushoku-u.ac.jp / Web: https://www.takushoku-u.ac.jp



学報

TACT

Vol.400 2026

WINTER

challenge!
change!
chance!

拓大生の未来
Graduates' Journeys

福岡ソフトバンクホークス

野村 勇さん

TACT400号記念

～学報が歩んだ道～



TAKUDAIの“いま”

2025年度後期におけるトピックスをご紹介します。

2025年、本学から2人の関取が誕生

相撲部出身の卒業生2人が、土俵の上で大きな成果を上げています。

朝白龍



・朝白龍(朝白龍太郎／本名:ラグチャー・ジャミントホ)
2022年国際学部国際学科卒業
モンゴル国ウランバートル市出身
9月の大相撲秋場所にて新十両優勝を果たした朝白龍関の昇進祝賀会が、10月20日(月)に嘉ノ雅 茗溪館にて開催されました。11月の大相撲九州場所千秋楽では、西十両2枚目で10勝目を上げ、躍進が続いています。

藤凌駕



・藤凌駕(藤凌駕雅治／本名:五島雅治)
2025年国際学部国際学科卒業
愛知県出身。和歌山県立箕島高校出身
11月の大相撲九州場所千秋楽では、新十両で13勝2敗を挙げ、見事優勝。12月4日(木)には文京キャンパスを訪れ、今後のさらなる飛躍を誓いました。本学出身の力士の優勝は先場所の朝白龍関に続く2場所連続となり、今後の活躍が一層期待されます。

「デザインペコプロジェクト2025」を実施

工学部デザイン学科3年次の「デザインプロジェクト演習」の一環として、福島県会津若松市で「デザインペコプロジェクト2025」を実施しました。本プロジェクトでは「出身地×会津」をテーマに、3年生12人が伝統工芸品である「赤ペ」と、全国各地の文化・特産品を融合させた「デザインペコ」を制作。個人・グループ作品合わせて15点をアカペコランド飯盛山店に出展しました。

さらに、小出研究室の4年生と大学院生も参加し、地域文化を題材とした作品を発表。アカペコランドおよび会津大学短期大学部との産学協同により、展示会場ではQRコードによる作品紹介や来場者による人気投票も実施するなど、インタラクティブな展示を実現しました。本取り組みは、福島民友新聞(10月23日付)および福島民報新聞(10月29日付)にも掲載され、学生の創造力と地域振興が注目を集めています。

出展作品の詳細はこちら



「ホームカミングデー2025」を開催



9月20日(土)、文京キャンパスにて2018年以来7年ぶりのホームカミングデーを開催しました。今回は、40～50代の卒業生(96期～110期)を中心に、ゼミナールや課外活動、麗澤会海外派遣団などの同窓会の場としても広く参加を呼びかけ、総勢300人弱の方々にご参加いただきました。オープニングでは、岡戸巧理事長による歓迎の言葉に始まり、95期卒業生の藤田一郎氏による特別講演、学生によるアカベラやダンス披露など、会場は終始和やかな雰囲気になりました。体験講義やキャンパス見学、交流の場として「つながりラウンジ」なども企画し、TAKUDAI同窓生間ネットワークを育む機会となりました。学生食堂で行われた「全体懇親会」では、同窓生を代表して吉岡光男学生会長より力強い歓迎の挨拶と乾杯の発声をいただき、各期・各活動の仲間が久方ぶりの再会を喜び合い、思い出話に花を咲かせながら盛況のうちに閉会しました。

当日の様子ははこちら



「第3回オレンジフェスタ」を開催

9月23日(火・祝)、文京キャンパスにて「第3回オレンジフェスタ～親子でワクワク体験しよう～」を開催しました。今年度は、「学び」を取り入れた学部との連携企画やダンスショー、芳香剤づくり、バルーンアート体験など全33のプログラムを実施。1,387人の来場者にご参加いただき、盛況に終了しました。



工学部・宮木健二准教授が

「London Design Award 2025」で2部門金賞を受賞

7月11日(金)、工学部の宮木健二准教授が、英国の国際デザインコンペティション「London Design Award 2025」において、Product Design personal care(プロダクト・デザイン・パーソナルケア)部門とProduct Design skincare(プロダクト・デザイン・スキンケア)部門の2部門で「GOLD WINNER 賞」を受賞しました。同賞は、革新性と創造性に優れたデザインを顕彰する国際的なコンペティションで、2025年度は35か国以上から2,300件を超える応募がありました。宮木准教授の作品は、日本から唯一の受賞となる快挙です。受賞作品は、国産ヒノキの端材やおがくずから抽出した天然オイルを用いたヘアケア・スキンケア製品のシリーズで、プロダクトデザインの意匠性に加え、リサイクル素材の活用、ジェンダーレスやエシカルな製品づくり、障がいを持つ方との共創など、多様な視点から国際的に高く評価されました。

出展作品の詳細はこちら



政経学部・白石浩介教授のゼミ研究を「厚生労働白書」にて紹介

2025年7月に公表された『厚生労働白書(令和7年版)』に、政経学部 白石浩介ゼミナールの3年生による共同研究が掲載されました。今年の白書では、若者が社会保障への理解を深める重要性が指摘され、その一例として白石ゼミの研究が取り上げられています。同ゼミの「学生納付特例に関する研究」では、国民年金の保険料納付を猶予する学生納付特例制度を対象に、制度の概要や歴史、先行研究の整理、独自アンケート調査、政策提言を実施。調査では、「制度情報の入手経路」や「日本人学生と外国人留学生の利用状況の違い」、「家庭の経済状況が制度利用におよぼす影響」などを明らかにし、教育セミナーの実施や経済格差に配慮した制度設計を提案しました。

白書の詳細はこちら



白書では「大学生ならではの視点による多角的で示唆に富む研究」として高く評価されました。白石ゼミでは今後も、政策実務に直結する研究を進め、学会等で政策提言を発表していく予定です。



9月25日(木)、「教育ルネサンス2030」改革改善に向けた教職員の研修会を実施

●「FDワークショップ(学部・大学院合同)」

全教員の教育能力・資質の改善・向上などを目的に、毎年FDワークショップを開催しています。今年度は「障がい学生への合理的配慮～拓殖大学の現在地～」をテーマに、寺家村博副学長・学生支援センター長、松原優子学生部長による「合理的配慮の概要」、辻公香障がい学生支援員による「教育現場における合理的配慮」についての講演を実施。本学における合理的配慮の理解につながる、成果の大きいワークショップとなりました。



左から 寺家村 副学長、松原 学生部長、辻 障がい学生支援員

●「研究倫理・不正防止に関するコンプライアンス研修」

研究活動または研究費業務に従事する教職員などを対象に、研究不正防止に関する理解促進を目的とした研修を毎年実施しています。今年度は「研究活動における不正行為と防止策」をテーマに、前山利幸副学長(研究倫理・公的研究費適正化委員会副委員長)より講義が行われ、それに対する質疑応答、理解度チェックテストを実施しました。引き続き、不正を起さない・起こさせない組織風土の醸成に向け、教育・啓発活動に努めています。



前山 副学長

そのほかの改革改善の取組はこちら



日本留学AWARDS 5年連続大賞受賞で殿堂入り

一般財団法人日本語教育振興協会が日本語学校教職員を対象に「留学生に勤めたい進学先」を調査し、上位対象校を表彰している「日本留学AWARDS」の2025年度版において、私立大学文科系部門(東日本地区)で大賞を受賞しました。推薦理由には、「教育内容の充実」、「生活面・学習面での留学生サポート」、「日本語学校との連携」、「留学生に配慮した入試制度」などがあげられ、長年培ってきた留学生教育プログラムが評価されました。また、今年度の受賞で9年連続の入賞、および5年連続の大賞受賞となり、「殿堂入り」となりました。7月11日(金)開催の表彰式では、鈴木昭一学長から日頃の支援への感謝と、殿堂入りを機に寄せられた推薦理由を改めて見つめ直し、日本語学校の期待に応え、留学生の夢の実現に向けて支援し続ける旨を挨拶しました。

「TAKUDAIリカレント」導入のお知らせ

この度、卒業生をはじめとする社会人を対象に、学び直しやキャリアの再構築を支援する新たな教育プログラム「TAKUDAIリカレント」を導入することとなりました。このプログラムでは、ビジネスやプログラミングなど、幅広い分野にわたる約150講座を開講予定です。それぞれのキャリア形成やスキル習得の目的に応じて学べる内容を提供するとともに、仕事と両立しながら受講できるよう、学習時間や受講方法に配慮した柔軟なカリキュラムを整備しています。本学は「TAKUDAIリカレント」を通じて、社会人が生涯にわたって学び続けられる場として、教育の幅をさらに広げていきます。



プログラムや講座内容の詳細は特設サイトにて!
TAKUDAIリカレント <https://trp.takushoku-u.ac.jp>

お問合せ先 takudai_recurent@noa-prolab.co.jp
「TAKUDAIリカレント」は、拓殖大学と株式会社ワークアカデミーの共同運営によって実施されています。

TAKUDAIの “いま”

2025年度後期におけるトピックスをご紹介します。

防災教育研究センター長・濱口和久特任教授が 第26回正論新風賞を受賞

防災教育研究センター長の濱口和久特任教授が、フジサンケイグループ主催の「第26回正論新風賞」を受賞しました。濱口教授は、豊富な実務経験をもとに、危機管理と安全保障を統合した実践的な提言を行い、地方行政への助言や政策提言を通じて社会に貢献してきた功績が正論新風賞にふさわしいと評価されました。複数の報道機関により記事が掲載され、広く紹介されています。

<防災・危機管理シンポジウム>

テーマ：「国民保護と平時・有事の危機管理体制を問う」
日 時：2026年2月14日(土) 13時30分～ 15時30分
会 場：文京キャンパス C館 C201教室
主 催：拓殖大学地方政治行政研究所附属防災教育研究センター

申込は
こちら



お笑いコンビ「ヨネダ2000」と学ぶ 「TOKYO交通安全キャンペーン」を実施

12月2日(火)、文京キャンパスにおいて、大塚警察署・大塚交通安全協会と連携した「TOKYO交通安全キャンペーン」を開催しました。本キャンペーンは、交通安全意識の向上を目的としたもので、当日は人気お笑いコンビ「ヨネダ2000」を一日署長として迎え、交通安全に関するトークショーを実施。飲酒運転の危険性や夜間における視認性向上に有効な反射材の活用など、交通事故防止に重要なポイントについて、楽しく分かりやすく紹介しました。年末に向けて人や車の往来が慌ただしくなる時期に、学生が交通安全を自分事として捉える機会となり、会場は多くの参加者で賑わいました。



ピアノ三重奏「クリスマスナイト」コンサートを開催

12月13日(土)、文京キャンパスにて、ピアノ三重奏による「クリスマスナイト」コンサートを開催しました。このコンサートは、八王子国際キャンパスから移設された「キャンパスピアノ」を活用し、日頃お世話になっている地域の皆さまへ感謝の気持ちをお届けする場として企画したものです。ステージには、プロの演奏家に加え、在学生である諸田由衣さん(国際ビジネス学科2年)も出演し、古典クラシックから映画音楽、ポップス、クリスマスソングまで幅広い楽曲を披露。地域の皆さまや卒業生など約200人の方にご来場いただき、会場は終始温かな音色に包まれました。



拓殖大学北海道短期大学

ドローンサッカー部が世界大会に出場

ドローンサッカー部は、9月23日(火)～29日(月)に韓国・全州市で開催された国際大会「FIDA World Cup Jeonju 2025」に出場しました。世界32か国・約2,500人が参加する舞台で予選を突破し、決勝トーナメントへ進出。世界トップレベルの技術に触れ、大きな成長につながる貴重な経験となりました。また、帰国後の「第3回ドローンサッカー大会神恵内カップ」ではA・B両チームが決勝へ進み、1・2位を独占。見事、3連覇を達成しました。



秋の恒例行事「収穫祭」—学生が育てた食材で交流—

農場を持つ北短ならではの恒例行事「収穫祭」を、11月12日(水)に開催しました。農学ビジネス学科の学生が育てたお米やジャガイモ、タマネギ、大根、ショウガなど豊富な食材を使い、特製豚汁・黒米ごはん・焼き芋を全学生・教職員・関係者に振る舞いました。前日の下ごしらえは1年生と拓殖大学国際学部農業総合コースに所属する学生が、当日の調理・配膳は2年生が担当。多くの参加者がおかわりするほど好評で、秋の実りに感謝する温かな交流の場となりました。



拓殖大学第一高等学校

「SB Student Ambassador東日本大会」に参加

「サステナブル・ブランド国際会議 学生招待プログラム 第6回 SB Student Ambassador 全国ブロック東日本大会」に、在学生が参加しました。10月26日(日)に法政大学市ヶ谷キャンパスで開催されたこの大会は、サステナビリティに関連した最先端の活動に取り組むオピニオンリーダーやサステナビリティ先進企業で活躍する人たちの講演を聞いた上でディスカッションを行い、高校生の立場や視点から意見や提案を発表するというものです。本校からは、2学年特進コースの生徒5人が参加しました。



陸上競技部が全国高校駅伝大会に 2年連続4度目の出場で7位入賞

陸上競技部が東京都予選を二連覇、その後の関東大会で過去最高の3位に入賞。12月21日(日)京都市・都大路が舞台の全国大会では、7位入賞を果たし、都勢30年ぶりの快挙となりました。沿道からの応援と校内では多くの生徒が集結し、中継を見ながら熱い声援を送りました。



ガクチャレ!

学生 チャレンジ AWARDS

2025年度
第16回

第16回 学生チャレンジAWARDS

成果報告発表会を実施しました!

12月13日(土)、文京キャンパスにおいて、優秀企画5団体による成果報告発表会が開催されました。各団体がこれまでの活動の集大成として成果を発表し、チャレンジ力やチームワーク、目標への達成度などを総合的に審査しました。その結果、より大きな成果が見られた企画には、チャレンジ大賞をはじめとした各賞および副賞が授与されました。



第16回 受賞企画一覧

チャレンジ大賞

団体名
日越カルチャー
企画名
目指せ! 分別マスター!
in Vietnam



チャレンジ賞

団体名
PolyNavi
企画名
「多言語マナーガイド×観光案内ツール」
～能登半島の魅力を再発見～



チャレンジ賞

団体名
Eco Bridge (エコブリッジ)
企画名
日本のゴミ分別を知ってもらおう



チャレンジ賞

団体名
水辺探し
企画名
子供たちへの水辺体験ライフ
～南浅川～



奨励賞

団体名
T-Connect
企画名
タクリンク・スポーツプロジェクト



詳細はWEBサイトから

過去の採択企画や、活動の様子も
WEBサイトで紹介しています!
2026年第17回募集要項の詳細は、
3月にHPで公開予定!

拓大 ガクチャレ



<主催> 広報部・学生部 <お問い合わせ> gakuchalle@ofc.takushoku-u.ac.jp ※昨年度までの学生チャレンジ企画から名称が変更されました。

キャッチコピー

・KORYO FESTIVAL2025・

色が舞い、
音が走り、
熱が爆ぜる

紅陵祭

文京キャンパス

ハイライト

11月1日(土)～3日(月・祝)の3日間、文京キャンパスにて紅陵祭が開催されました。

今年度は97団体が参加し、卒業生や保護者、地域の皆さまなど、約**5,700**人の方々にご来場いただきました。

当日の各プログラムの様子をご紹介します。

11/1

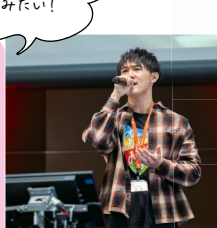
SAT

〔大学祭実行委員会本部企画〕

カラオケ大会

昨年に引き続き開催されたカラオケ大会には、学生・教職員を含め多くの方が出場！当日参加枠にも多数のエントリーがありました。

まるでプロのライブみたい！



HIGHLIGHTS



お笑いライブ

今年のお笑いライブでは、いまが旬の人気芸人「ダイタク」「エバース」「家族チャーハン」の3組が出演し、会場を笑いの渦に包みました。

受賞団体

拓殖杯

日々の成果を遺憾なく発揮し、主体的に取り組む、紅陵祭を最も盛り上げ、華を添えた団体



ダンス愛好会Bloom

紅陵杯

団体の特色をいかし、発表形式・内容共に、十分な理解度、高い完成度を備えた団体



学生健康保険委員会

模擬店賞

野外模擬店企画において斬新なアイデアやユニークな企画を盛り込み、来場者の注目を集めた団体



紅励杯

斬新なアイデアやユニークな企画を盛り込み、来場者の注目を集めた団体



吹奏楽部

文化賞

教室企画において、団体の魅力と努力の積み重ねを最も際立たせた団体



日越カルチャー

審査員特別賞

審査員の印象に残る催しを行った魅力的な団体



チアリーディング部

放送部

ゲストセレクション

来場者からの注目を浴び、来場者投票で最も多くの票を集めた団体



Eco Bridge

学生チャレンジAWARD採択団体
企画詳細はP.5をチェック！

学生チャレンジAWARD採択団体
企画詳細はP.5をチェック！

ダブル受賞！

第87回

八王子国際キャンパス

語劇祭 ハイライト

12月5日(金)・6(土)の2日間、第87回語劇祭「拓大から世界へ～melodyを～」が、八王子国際キャンパス麗澤会館90年記念ホールで開催され、盛会裡に終了しました。

受賞団体

拓殖杯

語劇力・舞台装置・演技・作品の構成等、最も印象に残る劇をした団体

アラビア研究会
「牛若丸と弁慶」



優秀賞

語劇力・舞台装置・演技・作品の構成等、拓殖杯に次いで印象に残る劇をした団体

動画制作愛好会
「誕生日ケーキ」



最優秀個人演技賞

演技が最も優れていた個人

動画制作愛好会
荊伊諾
(国際日本語学科4年)



新進気鋭賞

今後に期待を持てる個人(1・2年生対象)

アラビア研究会
松本 旺起
(国際学科1年)



審査員特別賞

審査員の印象に残る催しを行った魅力的な団体

Risa Mariposa
(スペイン語学科有志) 体育局連合会

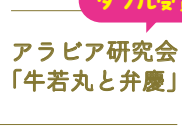


ゲスト セレクション

来場者からの注目を浴び、来場者投票で最も多くの票を集めた団体

ダブル受賞！

アラビア研究会
「牛若丸と弁慶」



参加団体

外国語劇発表団体
8団体6カ国語

- アラビア研究会(アラビア語)
- アフリカ研究愛好会(スワヒリ語)
- インドネシア研究会(インドネシア語)
- 英語研究会(英語)
- 中国研究会(中国語)
- 動画制作愛好会(中国語)
- スペイン語学科有志(スペイン語)
- 政経学部 渡邊俊彦先生ゼミナール(中国語)

文化活動発表団体
4団体

- アカベラ同好会
- ビートルズ研究愛好会
- ポップライブ愛好会
- K-POP愛好会

アーカイブ映像
語劇祭の様子はこちら



PROFESSOR'S HISTORY

研究最前線

KAWAMURA Kazunori

政経学部

河村 和徳 教授

DATA. 04



現地へ足を運び、 データ分析で紐解く 地方選挙と現代日本政治

研究テーマ

PROFILE

静岡県出身。1995年、慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻 修士課程修了（修士・法学）。2021年、東北大学大学院情報科学研究科 博士課程修了（博士・情報科学）。金沢大学法学部助教授、東北大学大学院情報科学研究科准教授を経て、2025年より現職。地方選挙を中心とした現代日本政治について、多岐にわたる研究を行っている。総務省や地方自治体など公的機関で委員を務めるほか、ラジオのゲストコメンテーターや新聞への寄稿など、多数メディアでも活躍している。



CHECK

東日本大震災を契機に広がった研究領域

さらに詳しい記事はこちら！

ほかの教員も紹介しています！



01

東北で活動していた研究者としての役割

私はこれまで、地方選挙を中心に現代日本政治の研究に取り組んできました。当初は「選挙における投票行動」や「政治家の行動」など、「行動」に着目した研究に重点を置いていましたが、2011年の東日本大震災が大きな転機となり、研究の幅が飛躍的に広がりました。当時、東北大学に在籍していた私は、東日本大震災学術調査を担っていた京都大学名誉教授・村松岐夫先生から、「被災地の記録は河村くんの役割だ」と指示を受けたのです。これをきっかけに、復興過程の記録、投票したくてもできない人々の問題、若者の棄権、さらには余震下での選挙運営や投票所の危機管理といった、選挙がバナンス全体へと関心が広がっていきました。自分の研究関心に加えて、社会的要請に応える形で研究領域を拡張していきました。



宮城県女川町での被災地調査



福島県副知事・鈴木正晃氏と被災地学習における記念撮影（右端：本人）

03

社会安全学科の学びで必要なこと

2025年の社会安全学科開設を機に、拓殖大学に赴任することになりました。危機の現場では、「自ら判断する力」が非常に重要です。状況を見極め、自分ならどう行動するかを考える姿勢が欠かせません。2年次以降の授業では、単に知識を修得するだけでなく、「どう考えるか」を問う場面を意識的に設け、判断力を養うようにしていきたいと考えています。また、消防や警察など現場経験者の話を聞く機会も多く設けていますが、現場の知見と学問的理解の両方を行き来しながら学ぶことで、総合的に物事を捉える力を身につけてほしいと考えています。基礎である政治学・行政学・憲法を1・2年次しっかり学び、そのうえでステップアップしていくことが重要だと思います。



岩手県釜石市での復興政策のヒアリング



岩手県大槌町での津波被災調査

02

「選挙」への関心は、データ分析から

高校時代は静岡県の藤枝東高校サッカー部でキャプテンを務め、将来は教員免許を取得して高校サッカーの指導者になることを志していました。その目標を胸に、高校卒業後は慶應義塾大学法学部に進学。その頃、野球界ではヤクルトスワローズの野村克也監督が提唱した「ID野球」が注目され始め、私はデータ活用の分野に強い関心を抱くようになりました。その延長で、特に注目するようになったのが「選挙」です。当時は政治改革論議が活発で、政治学が大きく動き出した時期でもありました。入学当初はサッカー指導者をめざしていましたが、大学院進学を経て研究と教育の道を志すようになり、現在の仕事へとつながっていきました。

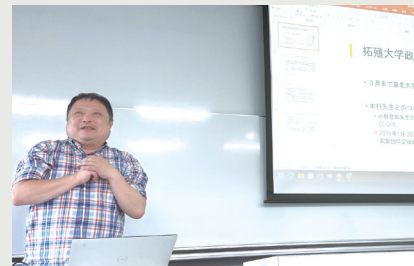


全国都道府県議会デジタル化専門委員会座長として記者会見

04

将来につながる「出会い」をいかして

大学には、一生のうちでここでしか触れられない学びがあります。最小限の単位で卒業するのもいいですが、大学ではぜひ興味の赴くままにさまざまな授業に触れてみてください。私自身、政治学を専攻しながらキリスト教史や日本史も履修していました。民主主義の選挙制度の背景にはキリスト教の思想が関わっており、また日本史を知らなければ現在の制度を説明することはできません。当時学んだ知識は、現在の講義にも役立っています。大学は、自分の人生を豊かにする「出会いの場」です。私たち教員はチャンスを提供できますが、それをどういかすかは皆さん次第です。受け身にならず、自ら「学びたい」と思えるものを見つけ、多くの出会いと経験を大切にしてください。



RISTEX共同研究での一枚

Graduates' Journeys

福岡ソフトバンクホークス
野村 勇 さん



インタビュー全文はこちら▶



PROFILE

兵庫県出身。小学校2年生から野球を始め、香川県藤井学園寒川高校を卒業後、拓殖大学に入学。拓殖大学野球部で腕を磨き、2019年に国際学部国際学科を卒業。その後、NTT西日本硬式野球部でプレーを続け、2022年に福岡ソフトバンクホークスに入団。今シーズンは自己最多となる126試合に出場し、打率.271、12本塁打、18盗塁といずれもキャリアハイを更新した。[SMBC日本シリーズ2025]では日本一を決める決勝ホームランを放ち、優勝に大きく貢献。さらに「ラグザス侍ジャパンシリーズ2025」のメンバーにも選出された。

DATA.07

NOMURA Isami

2025年、日本一に輝いた福岡ソフトバンクホークスに所属し、「ラグザス侍ジャパンシリーズ2025」の出場メンバーにも選出された野村勇選手。飛躍の一年となった2025年を振り返りつつ、プロとなった現在にもいきている拓殖大学野球部での経験や培ってきた技術について伺いました。



打席で構え集中する野村勇選手



積極的なプレーでチームに貢献

日本シリーズでの決勝ホームランで、日本一に大きく貢献。

苦難を乗り越え、大きく飛躍した入団4年目

2025年は、私にとってまさに“飛躍の年”でした。入団1年目にホームラン10本、10盗塁という好成績を残したものの、2・3年目は怪我の影響もあり、思うような結果を出せずに苦しい時期を過ごしました。「活躍できなければクビになるかもしれない」という危機感を抱えながら挑んだ4年目は、チームメイトの山川穂高選手や近藤健介選手などから多くの助言をいただき、私の特徴や強みをいかにしたバッチング指導を受けました。その積み重ねが今年の成績につながったと感じています。日本シリーズ第5戦では、延長11回に決勝ホームランを放ち、日本一の決定打に。追い込まれても強いスイングを意識していましたが、打った瞬間の感触は完璧で、「これは広い甲子園でも入る」と確信できる当たりでした。チームの日本一に貢献できたことは、何にも代えがたい喜びです。さらに、2025年11月の侍ジャパンシリーズでは、韓国戦のメンバーに初選出されました。アマチュア時代から代表経験がなかった私にとって、トップ選手と肩を並べて戦えたことは大きな刺激になりました。ただ、1年間だけ活躍しても意味がありません。毎年キャリアを更新し、いつかWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）の代表に選ばれるよう、これからも努力を続けていきます。

やりたいことを実現するために、

「やりたくないこと」にも向き合って

大学時代は野球漬けの日々でしたが、同級生とは皆仲が良く、野球部の寮でピザパーティーや鍋パーティーを楽しむ時間もありました。一方で、楽しい時間過ごすだけでは成長にはつながりません。在学生の皆さんには、さまざまな夢や「やりたいこと」があると思います。しかし、それを実現するには「やりたくないこと」に向き合う場面も訪れるはず。私自身、プロ野球選手として活躍し続けるためには、厳しい練習を重ね、食事や体調管理にも気を配る必要があります。やるべきことをおろそかにすれば、プロの世界で長く活躍することはできません。これは、どんな夢にも共通することだと思います。やりたいことを実現するために、やりたくないことにも向き合い、忍耐強く努力を続けてほしいです。

＼ 教えて！ /
1 問 1 答

Q 愛読書は？

A 著者：アンジェラ・ダックワース、翻訳：神崎朗子
『やり抜く力 GRIT（グリット）——人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』（ダイヤモンド社、2016年）
チームメイトの中村晃選手のおすすめだと聞いて読み始めました。成功する人は必ずしも天才ではなく、どれだけやり抜けたかどうか。自分自身と重ねながら読んでいます。



Q 休日の過ごし方は？

A 家族と買い物にかけます。
最近は古着屋によく行きますが、一人での買い物は苦手なので家族に同行してもらっています（笑）。また、昨年に続き今年も優勝旅行があり、チームでハワイに行ってきました。



笑顔でアロハポーズの野村選手

大学4年次、優勝決定戦で敗れた

忘れられない一戦

拓殖大学に進学した理由は、当時、チームが東都大学野球1部リーグに所属していたからです。1部リーグからは毎年多くのプロ野球選手が輩出され、私たちの代にも優れた選手が数多く在籍していました。練習で印象に残っているのは、冬の朝練です。朝5時半に起床し、八王子国際キャンパスのグラウンドを10周×3本、計30周走るメニューは本当に過酷でした。忘れられない試合は、4年生の秋季リーグ、専修大学との優勝決定戦です。途中まで大差で負けていましたが、後半は徐々に追い上げ、ツーアウト満塁の場面で逆転のチャンスが訪れました。バッターの放ったライトライナーは鋭い当たりでしたが、相手選手の奇跡的なキャッチに阻まれ、結果は7対8で敗北。当時、拓殖大学は2部リーグに所属しており、勝てば1部リーグへの入替戦に挑める状況でした。1部昇格を目標にきてただけに、その舞台に立てなかったことは本当に悔しかったです。



内田監督の指導を受ける野村選手



堅実な守備でチームを後押し

大学時代に鍛えられた心と体

内田俊雄監督の教えが野球人生の礎に

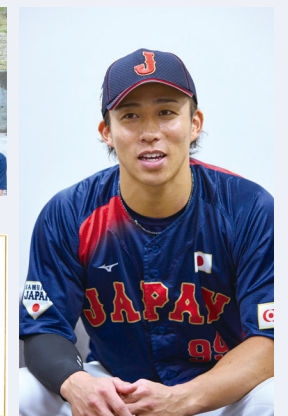
私の強みである足の速さは、大学時代に筋トレを始めたことで身につきました。私たちの代はウェイトトレーニングが好きな選手が多く、皆と一緒に鍛えていたんです。筋力がついたことで走力が上がり、打球もより遠くへ飛ばすようになりました。当時の野球部・内田俊雄監督は、バッチングや投球フォームといった技術面だけでなく、掃除や日常生活に至るまで指導していただきました。厳しい指導も多く、反発したい気持ちもありましたが、振り返ればそのおかげで忍耐力や言葉遣いが身についたと実感しています。大学時代は自分がプロ野球選手になれるとは思っていなかったで、社会人野球をめざしていると内田監督に伝えた際には、進路のために尽力していただきました。卒業後はNTT西日本に所属し、そこでの経験がプロ野球選手への道を切り拓く転機に。内田監督のもとで野球をしていなければ、いまの自分はいなかったかもしれません。大学4年間で、心と体の土台をしっかりと築くことができました。



拓殖大学野球部の仲間たちと



在学生へのメッセージとともにいただいたサイン



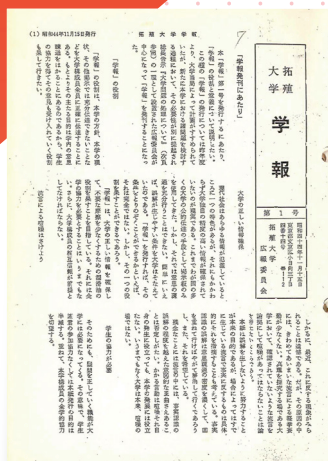
インタビューの様子

HISTORY OF TACT

TACT 400号記念 ～学報が歩んだ道～

『学報TACT』は、本号で通算400号を迎えます。
これまで本学の教育・研究活動や
学生の挑戦、国際交流など、56年にわたり
"拓殖大学のいま"を皆さまにお届けしてきました。
学報の軌跡とともに、かつて誌面を彩った
"あの人のいま"をご紹介します。

バックナンバー
はこちら



1号

(1969.11.15発行)

インターネットのない時代。
当時は、時間制やクラブ
活動、各課からのお知らせ
を伝える"ホームページ"的
役割を果たしていた。



200号

(1996.7.10発行)

1990年代から、新たに表紙を採用。



266号

(2008.6.13発行)

表紙はカラー印刷、本文はモノ
クロで製作された。



271号

(2009.5.15発行)

表紙・本文ともにカラー印刷となり、学報は
全面フルカラーに。表紙には卒業生で元
総合格闘家の須藤元氣さんが登場。

モノクロ印刷からWEB発信の時代を経て、
保護者向けに情報発信する役割も担うな
ど、学報は成長の過渡期を迎えていました。
拓大110周年(文京キャンパス再開発)、
東日本大震災、ロンドン五輪など学内外で
も大きな出来事があり、私にとっても非常に
濃密な10年でした。

U・Y
担当年号：2005年～2015年6月号



300号

(2012.10.1発行)

ロンドンオリンピックでは、拓殖大
学から9人のオリンピアンが出場
し、2012年はスポーツの熱気
にあふれた号となった。

「人生の今は拓大生が主人公である」と
のメッセージを伝えたく、学生をカバーモデ
ルに起用。誌面企画も学生の生活全般
にまで広げ、大学からも積極的にメッセー
ジを発信しました。「TACTに出たいです!」
と多くの声をもらえたのは製作冥利に尽
きます。

おぐす
担当年号：2015年7月号～2019年6月号



325号

(2015.5.1発行)

「T-act」から「学報TACT」へ改称。



347号

(2017.10.1発行)

表紙デザインが一新され、ファッション誌風
の華やかな装いに。

TACT >>

拓殖大学 >>

1900

前身となる台湾協
会学校が設立

1918

拓殖大学と改称

1919

校歌制定
(作詞:宮原 民平、
作曲:永井 建子)

1932

新校舎(現在の文
京キャンパスA館)
を竣工

1964

東海道新幹線開通
東京オリンピック開催

1972

麗澤会海外派遣
開始

1987

工学部設置

1995

阪神・淡路
大震災

2000

創立100周年
国際開発学部
(現:国際学部)設置

2008

文京キャンパス内に
新校舎(C館)完成

PICK UP HISTORY

1900



初代校長 桂太郎

拓殖大学の前身・台湾協
会学校の初代校長に就任。

PICK UP HISTORY

1934



A館と恩賜記念講堂



236号

(2002.11.11発行)

2000年の新たな出発を機に開
発されたシンボルマークを表紙に
採用。

281号

過去の掲載人物を調査! //
あの人の、いま。

まどぐち
PICK UP えとう 窓口 さん
1996年 政経学部政治学科卒業



©フタナベンターテインメント

拓大での学びがいけるお笑いタレント

掲載当時は、コンビ芸人としてブチブレイクの最中
で全国を飛び回っていました。現在は地元・大分県
に移住し、主にピンでタレント活動をしています。拓
殖大学では、政治学のゼミナールで思考力や説得
力を培い、その力は今も仕事で役立っています。卒
業生で先輩の綾小路きみまろさんとのロケは特別
な経験でした。大分県支部総会に初めて参加した
際には、久々に校歌斉唱と勝ちます踊り、押忍三
唱をしました。大学時代の経験すべてが私の財
産。遊びも学びも全力で頑張っと思っています。



284号

過去の掲載人物を調査! //
あの人の、いま。

かつき ひでゆき
PICK UP 香月 秀之 さん
1980年 商学部経営学科卒業



「押忍」の精神とともに歩む映画監督

掲載当時は、映画監督・脚本家として映画を撮り
終えたばかりでした。現在も活動を続けており、拓
大で培った「押忍」の精神—相手への敬意を忘れ
ず、苦しい時こそ笑顔で耐え、常に学ぶ姿勢—
が、今も私の基盤になっています。拓大生には、
建学の理念にある“国際社会で活躍できる人材”
をめざし、誇りを持って勉学やス
ポーツ、人脈づくりに励んでほしい
と思います。卒業後も拓大とのつ
ながりは続きます。

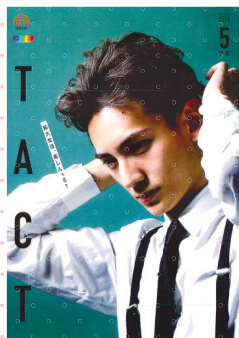


公式サイト

TACT 400号記念

～学報が歩んだ道～

時代は昭和から平成、そして令和へ。
『学報TACT』は、これからも
“拓殖大学のいま”を皆さまに
お届けしていきます。



352号 (2018.5.1発行)

当時の担当者から聞く／ 製作の舞台裏

製作におけるキーワードは「憧れ」。大学生が実年齢よりも若干高い層の雑誌を好み傾向があることに着目し、ターゲット層をあえて21～22歳に設定。2018年4月号からは、ファッション業界の雑誌を手掛ける製作会社とタイアップして製作しています。

へら作
担当年号:2019年7月号～2020年5・6・7月号



369号
(2020.4.1発行)

従来の毎月発行から、
2か月ごとの年6回発行
に変更。

先代が見栄える誌面を踏襲しつつ、「読み物」としての大学冊子を意識して製作しました。読者が拓大の取り組みを体系的に理解し、飽きずに読み進められる構成を重視しています。コロナ禍における制約の中、デザイン学科のネットワークをいかし卒業生であるイラストレーターに制作を依頼。コンセプト設計から費用管理までを一貫して担い、思い入れ深い一冊となりました。

あみまる
担当年号:2020年8・9月号～2022年4月号



377号 (2021.7.9発行)

TACT初のイラスト表紙に。イラストは卒業生で
イラストレーターの高田和寛さん(P.15参照)が
担当。

「読んでもらう」というよりも「見てもらう」ことを意識し、文章量を抑えつつ、写真やイラストを多く用いて製作しました。誌面全体を通じて直感的に内容が伝わる構成とし、手に取った人が気軽にページをめくめるよう工夫しています。特集企画としては、学生の関心が高いファッション特集や学食グルメ紹介を掲載したほか、キャンパス周辺を含む学外のお店や施設の紹介も行い、学生生活をより具体的にイメージできる内容としました。

おはな
担当年号:2022年5・6月号～2025年5月号



381号 (2022.4.1発行)

ツートーンの配色で、よりポップな
印象に。



390号 (2023.10.1発行)



393号 (2024.5.1発行)

年6回の発行から季節ごとの
年4回にリニューアル。

NEW



400号 (2026.2.2発行)



397号
(2025.5.1発行)

TACT WEBを
リニューアル。



TACT >>

2018

2020

2021

2022

2023

2024

2025

NOW

拓殖大学 >>

2018

あの人の、いま。

2020

新型コロナウイルス
感染症流行。

2021

東京オリンピック開催
あの人の、いま。

2022

あの人の、いま。

2025

ロゴマークのリニューアル
創立125周年。



356号

過去の掲載人物を調査！
あの人の、いま。

すずき
PICK UP 鈴木 みなみ さん
2021年 商学部国際ビジネス学科卒業



374号

過去の掲載人物を調査！
あの人の、いま。

ニハマト ニジャット
PICK UP 尼合麦提 尼加提 さん
2021年 商学部経営学科卒業



379号

過去の掲載人物を調査！
あの人の、いま。

ふるや なおこ
PICK UP 古谷 尚子 さん
2009年 国際開発学部開発協力学科(現:国際学部国際学科)卒業
2021年 国際協力学研究所博士前期課程修了



380号

過去の掲載人物を調査！
あの人の、いま。

たかだ かずひろ
PICK UP 高田 和寛 さん
2012年 工学部工業デザイン学科(現:デザイン学科)卒業



多様な世界との出会いをいかし、
楽しさを届ける

学生時代は麗澤会の海外派遣団に参加し、紅陵祭では夫のマットとともに留学生や在学生と各国の民族衣装を披露する「World Fashion Show」も企画しました。卒業後は中国企業に数年間勤務し、夫の支援を受けながら中国語を学びHSK(漢語水平考試)4級を取得。今後は、校歌の「人種の色と地の境我が立つ前に差別なし」のように、多様な国籍・世代の方へ「楽しい!」を共有できる活動を広めたいです。大学時代にしか得られない経験を大切に、興味を持ったことには全力投球してください。



初めてできた留学生
の友人でした!

私たちの出会いは、大学入学直後の新入生歓迎会。
国際交流愛好会に所属する友人を通じて知り合い、
1年生の5月に図書館で初めて会話を交わしました。

留学生と日本人をつなぐ架け橋

学生時代は「留学生パートナーズ」というサークルを立ち上げ、日本人学生と外国人留学生の交流に注力しました。拓大で培ったコミュニケーション力や相手の立場を考える姿勢は、現在の仕事でもいかされ、後輩育成では教える難しさや責任を日々実感しています。現在はリーダー職をめざし、専門知識の修得や資格勉強に励んでいます。在学生の皆さんには、「やらないで後悔するより、やって笑おう。たとえ失敗しても、その経験は知識と力になる」という言葉を胸に、自身の可能性を広げてほしいと思います。

国際経験をいかし、世界の水問題に挑む

掲載当時はコンサルタント会社で上水分野の調査や浄水場設計に携っていました。現在は「国際開発×飲料水」に着目し、ウォーターサーバー事業を通して水質問題解決に取り組んでいます。アフリカ数か国へ赴任中は、人種や国籍に関係なく一人の人として向き合う姿勢を大切に、現地スタッフと協働。最近ではベナンや第二の故郷ブルキナファソを訪れ、そこで得た知見や仲間との出会いは、私の大切な財産です。学報TACTを通じ、「世界の水問題を解決したい」という同じ志を持つ仲間と出会えれば嬉しいです。皆さんには、多様な人々や場所に触れ、自分の肌で感じた「リアル」を大切にしてほしいです。



地道に活動を続けるイラストレーター

現在もインテリア関連の会社に勤めながら、イラストレーターとして活動しています。2021年度には初個展の開催やTACTの表紙制作、TIS(東京イラストレーターズ・ソサエティ)公募入選など大きな転機がありました。3年前に群馬県高崎市へ移住して以降は、地域での活動も徐々に広がっています。拓大で培った「物事を探究する姿勢」を大切にしながら、日々地道な成長を実感。作家としては、暮らしの風景の一部として、家に飾り続けたいような作品の制作をめざしています。





\ クラブ&サークル紹介 /

TAKUDAI ClubLife!

Vol.04

剣道部



仲間とともに切磋琢磨し、
人間性を養いながら
成長できる部活動です！

詳しくはこちら



剣道部

男子21人、女子2人、マネージャー3人(※取材時の人数)が所属する剣道部は、大学設立とともに創部された125年の歴史を誇る部活動です。年に1~2回開催されるOB会では、懇親会に加え、先輩たちに稽古をつけていただく貴重な機会もあります。部員一人ひとりが主体的に課題を見つけて稽古に取り組み、武道の基本である「礼儀作法」を重んじながら活動しています。

\ check 01 /

どんな部活動？

「剣道部」はこんな部活動

2025年、13年ぶりに全日本学生剣道優勝大会(以下、全日本大会)への出場を果たし、ベスト16まで勝ち進んだ剣道部。主将の矢山 裕貴さん(経済学科 4年 / 千葉県 東海大学付属浦安高校出身)に、部の魅力や入部希望者へのメッセージを伺いました。

夏合宿で鍛えた力が実を結び

13年ぶりに全日本大会出場！一大きく飛躍した1年—

私たち剣道部は、全日本大会への出場を目標に日々練習を重ねてきました。その努力が実り、2025年には13年ぶりの全日本大会出場を果たしました。出場校20チームは、9月に日本武道館で開催された関東学生優勝大会の成績によって決定します。1回戦では、大将戦まで勝敗が決まらず、最終的に両チームから一人ずつ選出される代表戦に私が出場し、見事1回戦を突破することができました。惜しくも上位16チームには届きませんでしたが、敗者復活戦を勝ち抜き、出場権を手に入れました。この結果は、チーム全員の力の結集であり、とりわけ夏の福岡遠征での経験が大きな糧となりました。九州には、全国でも上位に名を連ねる強豪校が多く、厳しい練習試合が続きましたが、何度も挑戦を重ねる中で自信を深め、チームの絆も一層深まったと感じています。



\ check 02 /

活動方針

仲間と創る、自分の剣道

剣道部の魅力は、自分のやりたい技やスタイルに主体的に挑戦できることです。高校までは、監督の指導のもと、学校ごとの剣風に沿った稽古が中心でした。しかし本学では、自分の強みや弱みを見つめ直し、どのような剣道をめざしたいのかを主体的に考える時間が増えました。また、部員同士で気づいたことは積極的にアドバイスし合い、それぞれが自身の課題を見直すようにしています。そこに先輩・後輩の垣根はありません。日々の掃除なども1・2年生が率先して行う一方で、上級生も自ら行動して背中を示すことを大切にしています。こうした姿勢が、部全体の良い雰囲気と信頼関係を築いていると思います。



\ check 03 /

メッセージ

教え合うことで、ともに成長します！



初心者の方も大歓迎です。好奇心を持ってどんなことでも質問してください。教えることは自身の成長にもつながるため、気軽に質問できる環境を整えています。元気で真面目な方であれば問題ありません。「剣道は敷居が高い」と感じるかもしれませんが、練習後には皆で食事に行ったり、休日にはバーベキューを楽しんだり、和やかで充実した活動を行っています。ぜひ気軽に見学に来てください。

年間の主な活動

- 5月 関東学生選手権大会
- 8月 夏合宿
- 9月 関東学生優勝大会
- 11月 関東学生新人戦大会 / 全日本学生優勝大会
- 12月 オープン大会

剣道部の
最新情報はこちら

HP



Instagram



※学年は大会開催時点のもの。

レスリング部

本橋選手・菊地選手、
団体総合4位に大きく貢献！

試合名

内閣総理大臣杯全日本大学選手権大会

開催日・会場

11/8日(土)～9(日)
大阪府・金岡公園体育館

試合結果

- フリー92kg級 優勝 本橋 知大
(経営学科 3年 京都府 丹後緑風高校)
- フリー57kg級 準優勝 菊地 優太
(国際学科 3年 静岡県 飛龍高校)



サッカー部

吉原優輝選手、2026年シーズンから
ガンバ大阪に新加入内定！

吉原優輝選手(経営学科3年・大阪府
向陽台高校出身)が、2026年シーズン
からJ1のガンバ大阪に新加入
選手として内定が決定しました。



松村拓実選手、
ジェフユナイテッド千葉へ加入内定！

松村拓実選手(経営学科4年・静岡
学園高校出身)が、2026シーズン
よりジェフユナイテッド市原・千
葉への加入が決定しました。



高畑選手、水崎選手がダブル準優勝！

試合名

東日本学生選手権大会新人戦(秋季)

開催日・会場

11/27(木)～29(土)
駒沢オリンピック公園 屋内球技場

試合結果

- グレコ72kg級 準優勝 高畑 眞斗
(社会安全学科 1年 福島県 喜多方桐桜高校)
- グレコ77kg級 準優勝 水崎 峻介
(国際学科 1年 京都府 丹後緑風高校)



6年ぶりの世代別世界選手権
出場で銀メダル！

試合名

U23世界選手権大会

開催日・会場

10/26(日)
セルビア・ノビサド

試合結果

- フリー57kg級 準優勝
菊地 優太
(国際学科 3年 静岡県 飛龍高校)



ボクシング部

天井澤選手が初優勝！

試合名

全日本選手権大会

開催日・会場

11/25(火)～30(日)
ひがしんアリーナ

試合結果

- クルーザー級 優勝 天井澤 一志
(国際学科 4年 新潟県 関志学園高校)
- ライトミドル級 3位 六井 和
(国際学科 3年 新潟県 関志学園高校)



女子バスケットボール部

準決勝で江戸川大学と
対戦し、ベスト4！

試合名

皇后杯全日本選手権大会
(セカンドラウンド[関東ブロック])

開催日・会場

11/29(土)・30(日)
茨城県・リリーアリーナMITO

試合結果

- ベスト4



女子陸上競技部

総合14位でゴール！

試合名

全日本大学女子選抜駅伝競走
(富士山女子駅伝)

開催日・会場

12/30(火)
静岡県・富士宮市～富士市

試合結果

- ベスト4

試合結果
●14位 2時間30分08秒



アラビア研究会

『牛若丸と弁慶』をアラビア語で上演し、グループ部門優勝！

大会名

アラビア語パフォーマンスコンテスト2025

開催日・会場

12/13(土)
慶應義塾大学 日吉キャンパス

結果
●グループ部門 優勝



2・3月のイベント インフォメーション

アーチェリー部

2/27(金)～28(土)
全日本学生室内個人選手権大会
(長崎県・県立総合体育館)

水泳部

2/7(土)・8(日)
東京都冬季競技会
(東京アクアティクスセンター)

ライフセービング部

2/14(土)・15(日)
全日本学生競技選手権大会
(栃木県・日環アリーナ栃木)

2/21(土)・22(日)
全日本競技選手権大会
(東京アクアティクスセンター)

陸上競技部 女子陸上競技部

2/15(日)
全国大学対校男女混合駅伝競走大会
(大阪府・ヤンマーフィールド長居)

重量挙げ

3/5(木)～8(日)
全日本学生選抜大会
(埼玉県・上尾スポーツ総合センター)

吹奏楽部

2/18(水)
第59回 定期演奏会
(八王子市南大沢文化会館)

写真研究会

書道研究会

美術研究会

デジタルコンテンツ研究愛好会

2/21(土)～25(水)

拓殖芸術展
(八王子市学園都市センター11階)



※内容が変更になる場合もありますので、詳細は各イベントHPで確認してください。

サッカー愛好会アドリアーノFC

創設から1年半で、公式大会初優勝！

試合名

グランドチャンピオンシップ
2025

開催日・会場

12/13(土)～14(日)
茨城県・サッカータウン波崎

試合結果

- 優勝
- 最優秀選手賞 山下 真虎
(国際ビジネス学科 3年 石川県 私立星稜高校)



ヨーロッパ研修やオープンキャンパスのボランティアで、交流を広げることができたから。

ゼミで新しい友人ができて、学生生活がより一層楽しくなりました！

委員会や紅陵祭で多くの人とつながりを持てたから。

多様な価値観から新しいアイデアを得られた満足感のある一年でした！

質問

2025年度
印象に残った
経験はどっち？

57% 43%

投票結果はこちらをCheck!

学びの中で多くの発見を経験した結果、大学院進学が決まりました。

勉強を通じて、新たな研究対象を見つけたから。

1年生で学んだ経営学を、2年生の実践授業でより深く理解できたから。

部活で新しいことに挑戦したり、新たな言語も学び始めたから！

TRKUDRI留学生に聞く／

異文化交流！

世界各国の言語が飛び交う、国際色豊かな拓殖大学。何気なく過ごしていた大学生活で出会った日本人学生と外国人留学生の仲良しコンビに、お互いの印象などについて聞きました！

ながみね めい
永峰 夢衣さん
英米語学科 2年
(東京都 若葉総合高校出身)

日本

ラウラ ハディジャー
ムニールさん
国際学科 2年
(東京都 東京インドネシア共和国 学校出身)

インドネシア共和国

Q. 出会いとお互いの第一印象は？

永峰さん) 以前から、お姫様みたいでかわいいなと思っていたのですが、なかなか声をかけられませんでした。ある日、学生ホールで、私の友人が好きなアーティストのTシャツを着ている彼女を見つけ、「今だ!」と思って声をかけました。それをきっかけに、会話を交わせるようになりました。

ラウラさん) 学校では普段インドネシア人の友人と一緒に、一人で過ごしていましたが、メイに突然英語で話しかけられたときは驚きました。その後は会うたびに挨拶を交わすようになり、少しずつ仲良くなりました。

Q. 2人の一番の思い出は？

永峰さん) 代々木公園で開催されていたアフリカフェスティバルに行ったことです。お互いのパートナーがアフリカ出身ということもあり、4人で遊びに行きました。伝統的なアフリカンミュージックで踊ったり、アフリカ料理を味わったり、とても楽しかったです。ちなみに、私たち以上にパートナーたちのほうが盛り上がっていたよね(笑)。

ラウラさん) そうだったね!(笑)。次は、メイと一緒にタイを旅行したいです。インドネシアにも近いし、インスタでよく見かける屋台料理がとてもおいしいと思うので、一緒に体験してみたいです。

Q. 異文化交流で得た気づきや成長は？

ラウラさん) メイのすごいところは、誰に対しても気さくに話しかけられるところ。その影響で、私も以前より人見知りせずに話せるようになりました。彼女は、一緒に深い議論ができる初めての日本人の友人でもあります。私は日本語より英語のほうが話しやすいので、英語を話せるメイとはなんでも気軽にコミュニケーションできて嬉しいです。

永峰さん) 彼女は一見おっとりしていますが、実は物事を深く考えている真面目な人です。政治や宗教について話す機会も多く、話すたびに視野の広さを実感します。物事を多角的に見る目が養われました。

次号は5月1日発行予定です。

この冊子に関する、ご意見・ご要望は「広報室」までお願いします。
なお、「学報TACT」は保護者等住所宛てに届けており、ホームページからもご覧になれます。

【保護者等の皆さまへ】

保護者等の方の送付先変更は電話では受け付けておりませんので、
学生本人が学務課に直接届け出てください。